長岡京市上下水道事業審議会　第8回（令和６年10月21日）

【議事概要】

１．開会

2．議題

**⑴令和5 年度事業報告**

**・水道事業**

**・下水道事業**

**⑵水道料金以外の手数料等の見直しについて**

**⑶その他**

事務局より　⑴令和5 年度事業報告・水道事業について改訂版の全ての項目にそって説明。特に詳

しく説明する。

内容については別途パワーポイント資料を使用して説明した。

質疑応答

(会長)

水道事業の令和5年度事業報告や収支計画について何かご意見あれば。

（委員）

感想に近いものになるが、最近は長岡京市公式ラインアプリから情報も入ってくるし、手続き、申請関係も全部ラインで完結できるようになっており、暮らしている人間にとってはすごくやりやすくなった。とてもありがたい。

（事務局）

市全体でスマホを活用し、様々な手続きができるように進めており、ご来庁いただかなくても、ご自宅で手続きが行えるようなってきている。

（委員）

質問だが、まず1つ目が4ページの水需要の見込みと実績。工場用の数値が予測よりも高かったが、これは何か原因があるのか。

（事務局）

大口5社の業績が非常に回復しており、その影響がとても大きい。

（委員）

私もその工場のような製造業の会社に勤めたことがあり担当部門が2ヶ月に1度、水道使用量の報告書というのをまとめて、提出していた。もしそのような水量の増減がわかれば、予測値を随時修正していくこともできると思うのだが。

（事務局）

この予測値につきましては、一旦策定したものは変えずに、基本ベースでこれからも使用していこうと考えておりまして、今後毎年審議会で、決算値が出た際に、予測からどのような動きになったのか、その変化を皆様にご説明していこうと考えている。

（委員）

私が懸念しているのは、特に夏場で、水不足が発生した際に工場としては生産量が上がっている場合等、リアルにその状況を掴んでる状況じゃないと、困るのではと感じた。状況把握が必要なのではと思いお伝えした。

（事務局）

毎月、例月出納検査というものがあり、水量を含めて、大口5社、家庭用、営業用など数値を監査に提出している。前年度比較を行うなど、毎月分析を行っている。

（委員）

次が2点目の質問になるが、10ページの貯水槽水道指導率の推移、貯水槽水道指導率についてこれは誰から誰へ指導をされるのか教えてほしい。

（事務局）

貯水槽を定期的に検査しているか確認している。98.4%の残り1.6%は指導はしたけれども結果が返ってきていない割合が含まれている。

（委員）

最後に22ページの水だよりについて、ラインで開閉栓申し込みができるのがとても便利で、皆さん使いやすいと思うが、実際には転入されてくる方が開栓する場合が多いと思う。市民課などまず先に手続きにいく場所で情報提供するような仕組みはあるか。

（事務局）

転入された際にまず行かれる市民課では転入後必要となる手続きの一覧表をお渡ししており、その中で水道の手続きの箇所にQRコードを付けており、そこからこの水だよりにアクセスできるようにしている。

（委員）

投資・財政計画(収支計画)について、修正はせず、これをベースにして、決算値実績と比較をしていこうということだが、令和6年以降はやはり経常損益がずっとマイナスになっている。しかし、令和5年度決算の数字は予測値よりも少なく出ている項目が多い。つまりこの予測の立て方が保守的になっているのではと考えている。見せ方としても市民に与えるインパクトとして不安感を与えるのではないかと考えるが。

（事務局）

収支計画の予測については、予算ベースから決算に置き換わったときに、圧縮することはあり得ることで、今回の実績を見ても、良化しているというのはおわかりいただけるかと思う。確かにおっしゃるとおり、保守的な印象を与えると感じる。答申では、当面の間は水道料金がこのままでいけるのではという意見を頂いている。令和5年度は予測より良化したのだが、今後動力費も、今のところは国が補助しているがそれも終了すると聞いている。物価についても今後どうなるかわからない。その点は注視している。

（委員）

考え方は非常に理解できるところだが、例えば補修、修繕費など、予算よりも少ないので本当はこのタイミングでやらないといけない修繕があるのにやっていないというようにも見えてしまう。

（事務局）

必要な修繕はしている。修繕はいつどれだけ発生するかわからない為、修繕費が不足することがないよう予算を確保している。

（副会長）

一番下の3つの重点指標が、良い形に着地したと思う。今後、もし確実に予測が変わる事がわかっておれば修正してもいいと思う。

事務局より　⑴令和5 年度事業報告・下水道事業について改訂版にそって説明。特に詳しく説明す

る内容については別途パワーポイント資料を使用して説明した。

質疑応答

(会長)

下水道事業の令和5年度事業報告や収支計画について何かご意見あれば。

（委員）

水道の家庭用は予測値と決算値であまり差が無かったが、下水道事業の家庭用では169,000㎥の差がでている。これは何が原因か分析されているのか。

（事務局）

下水の家庭用の場合は、ご自身の井戸を使用されている場合がある事と、予測値が多めに見積もっていたのではと考えている。

（委員）

P12の水洗化率について85世帯に個別訪問を行ったとあるが、全体ではどれくらいあるのか。

（事務局）

令和6年3月末時点で接続されていない世帯は294世帯ある。そのうちの85世帯を、去年は戸別訪問させていただいたということだが、今後も引き続いて、個別訪問し啓発活動を実施していく。

（委員）

水洗化するのに、相当な費用負担がいるのか。

（事務局）

そのご家庭の事情によるが、トイレの改造だけで済まない場合もあある。台所やお風呂の排水などを含めてすべてやりかえると金額的には、100万円くらいの個人負担になる場合もある。

事務局より⑵水道料金以外の手数料等の見直しについて説明

質疑応答

(会長)

審議会でここまで詳しい内容は取り上げたことがないが。少し受益者の負担を変えようという提案であると思っているが何か意見があれば。少し難しいと思うが。

（事務局）

詳しく説明すると道路の真ん中に必ず水道管があるわけではなく、どちらかの端にあり、その水道管から近いご自宅だと工事費が安くなる。反対に遠いご自宅だと高くなる。これを長岡京市では公平にしようということでプール額制度により金額を定めている。私達もこのプール額制度で申し込まれた方からお金を預かって、工事をしていただいた業者に支払う。ところが年々物価が高騰し、労務費があがることでこの収支バランスが11ページを見ていただくとわかるように単年度収支ではマイナスになっている。累計では検査手数料がプラスされるためまだ1,200万円あまり黒字だが、収支累計が減少している。この1200万円の黒字が赤字に転じた場合、そのマイナス分をどこから補填するかいうと水道料金から補填することになる。そうならないように今回改定をして、また5年先を見据えて、収支がうまくいくようにしたいと考えている。

（副会長）

収支を改善されるのは大事なことだと思う。

（委員）

14ページに小口径と大口径の改定額があり、40％の引き上げと2倍の引き上げはかなり差があると思うが実際それくらい費用がかかっているのか。

（事務局）

大口径の方が単に物価高だけではなく、定流量弁の設置を平成28年度以降に義務付けており、その部品も含まれることになる。その際に汎用性が低いため単価の見直しは行っておらず、小口径の値上げだけで対応できるとその際は考えていた。近年、大きいマンションが建設され、大口径の使用が発生している。現在の物価高を考慮して試算した結果、約2倍の引き上げとなった。

（委員）

8ページに砂利道と舗装道の金額が表示されているが、この金額の違いは工事の難易度が起因しているのか。

（事務局）

砂利道は工事後に舗装本復旧といわれる工事を行わなくてもよいという事とアスファルトなど産業廃棄物も発生しないことから金額に違いがでている。例えば家の前がタイルになっている場合、高くつくのでは思われるかもしれないが、本市では分岐プール額として一律にしている。

（委員）

工事以外で土地の手続きが砂利道と舗装道で例えば法的に異なり煩雑になることがあるのか。

（事務局）

この工事については指定工事業者を通じて行うことになり、その業者が調査し、金額を決める。

事務局より　⑶その他について説明

（会長）

毎年、決算の報告をして、審議会の委員の方がご理解いただくのは非常にいい制度だと思う。なんとか続けていただければと思う。

私は井戸や下水道を専門として、学生を育ててきた。特に海外の途上国に興味があり、アフリカや南米を含め55ヶ国ぐらい訪問した。島国も回り、水道と言えないようなものも見てきた。そして水を通じて、人々と触れ合ってきた。厚生労働省や国土交通省との事業や、学生を連れて、途上国の水問題はここにあるんだということを現地で調査したこともある。そういう意味でやれることはやったと言える。長岡京市とは長く関わらせていただいた。

事務局最後に何かあるか。

（事務局）

現在、本市の水源の元である日吉ダムが、降雨量が少なく、貯水量が今朝の時点で10.7%ぐらいに落ちている。現在、取水制限が30％となっているが本市の給水に影響は無い。渇水の原因の1つに、8月末の台風10号がある。豪雨を見込んで放流を行ったが予報が変わり、結果的にそこまで雨が降らなかった。最近の気候変動でこのような事が度々起こる。みなさんが見学に行かれた神足雨水貯留施設を建設するのに膨大な費用がかかっている。多額の費用を災害に充てなければいけない。昔のような暮らしだったらこのようなことは必要無かった。そういうことを考えるとやはり2050年のカーボンニュートラルについては、上下水道部としては新たな課題だと思っている。次の計画時には必ずカーボンニュートラルに対する視点を置いて作成しなければと考えている。

（会長）

現実的で参考になる意見であった。

以上をもって第8回審議会を閉会する。

３．閉会